



適期収穫に向け万全な準備を

**高温環境下で生育は挽回しています。
刈り遅れに注意し、高品質米の生産を！**

J A たきかわ 営農部
空知農業改良普及センター-中空知支所滝川分室

表-1 9月1日の作況ほの生育状況（成苗きらら397）

区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂			成熟期
				始	期	揃	
本年	59.9	17.4	574	7/27	7/31	8/4	
平年	63.9	16.7	623	7/22	7/25	7/29	9/9
差(比)	94%	104%	92%	-5	-6	-6	
評価	やや短	やや長	やや少	遅い	遅い	遅い	

※中苗は成苗より3～4日遅い
※作況ほ(籾目)：滝川(5月22日)、芦別(5月26日) 赤平市(5月26日)

1. 作況経過について

8月の猛暑により、登熟は順調に進んでいます。

9月1日現在では平年比4日程度遅の遅れです。

稈長はやや短かく(94%)、穂長はやや長く(104%)、m²穂数はやや少ない(92%)状況です。

収量構成要素は平年と比べ、m²穂数はやや少なく、1穂もみ数はほぼ平年並のためm²総粒数はやや少ない傾向です。不稔は平年並～やや少ない状況です。

2. 収穫適期はいつ頃か

良質米の生産には、出穂期から平均気温を積算した値が、950～1000℃必要とされています。

粒数が少ない場合や熟期が進んでいる場合は、900℃を過ぎたあたりからでも、刈り取り適期となる場合があります。

表2は、出穂期別の積算登熟温度から良質米の収穫適期を予想したものです。今後平年並みの気温経過で予測した場合、9月4半旬～9月5半旬が適期と推定されます。

ただし、今後の天候や稲体の生育量、土壌条件等によって、変化することもあるので、必ずほ場の稲株の黄化状態を観察して、ミニダップの利用による玄米状態を確認して適期収穫を行いましょう。

3. 収穫適期の判定は必ずミニダップを利用しよう

今年の稲は、近年になく個人差、ほ場差が大きくなっており、遅発分げつも多くなっています。同時に、高温環境下で登熟しているため適期収穫期間も短いことが考えられます。

収穫の判定にはミニダップによる玄米判定をこまめに行いましょう。生育ムラの大きいほ場などはできるだけ別刈りを実施して、品質の低下を防ぎましょう。

適期刈り取り判定 サンプル受付 9月11日(月) (中空知農済実測センター)
適期の判定 9月12日(火)

農作業事故に注意しましょう

表-2 本年における刈取り適期予測表（平成18年）

出穂期	出穂後40日間積算温度			積算温度950℃			積算温度 1050℃以上
	到達日	積算温度 ℃	日平均 ℃	到達日	到達日数 日	積算温度 ℃	
7月26日	9月4日	891	22.3	9月8日	44	962	9月14日
7月28日	9月6日	885	22.1	9月10日	44	956	9月16日
7月31日	9月9日	877	21.9	9月14日	45	959	9月20日
8月3日	9月11日	848	21.2	9月18日	46	958	9月25日
8月5日	9月13日	834	20.9	9月21日	47	956	9月28日
平年							
7月25日	9月3日	821	20.5	9月9日	46	945	9月29日

※ 出穂期は水田全体の出穂が40～50%に達した頃
※ 8/31まではH18年、9/1以降は平年値使用(滝川アマダス値)。

